

## 1 調査結果の分析

### 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から

平成 26 年度東京都「児童・生徒の学力の向上を図るための調査」の結果では、とくに「比較・関連付けて読み取る力」や「推論して解決する力」に課題があることが分かった。また「読み取る力」については 3 問中 2 問で 5 割に満たない正答率であった。日常の授業において、問題の意味をイメージし、2 つの数量の関係を式や図と関連付けて表したり、規則性を見出したりする活動を十分行うことが必要である。

#### < 関心・意欲・態度 >

等積変形をして面積を求める問題、計算のきまりを活用する問題では、共に 9 割に近い児童ができていた。算数に対する関心・意欲・態度は非常に高いと考えられる。

#### < 数学的な考え方 >

複合図形や展開図など、工夫したり多様な考え方をしたりして解決していく課題については正答率が高い。一方、かけ算の分配法則や結合法則を活用する問題については正答率が低かった。数感覚や概数でみるよさを感じさせる活動を積み重ねていくことが必要だと考える。

#### < 技能 >

かけ算や分数の計算問題は、正答率が高いものの、小数の計算は、位を揃えて計算できておらず正答率が低い傾向にある。

#### < 知識・理解 >

図形の構成要素や性質、数の相対的な見方の正答率が低い傾向にある。

### 「全国学力・学習状況調査」から

算数 A に於いては、数量関係や計算など、知識、技能など全国平均を 1 ポイント上回っていた。割合や数を相対的に見ることを問う問題については若干低い結果となった。また、算数 B に於いては、全国平均よりも 6 ポイント近く上回っており、課題を解決する力や既習事項の活用する力の高まりが見られる。理由や根拠を多様な方法で思考、表現する学習の定着を一層進めていく。



## 2 授業改善の方策

### ◎ 言語・表現活動の充実

言語・表現活動の面から授業計画を見直し、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、表現し、説明する活動を取り入れた授業を計画的に行う。

- ・ 児童の意欲を喚起し発達段階に応じた問題解決場面を設定し、基礎的・基本的な内容を重点にしながら、数学的な考え方、思考力を高める授業づくりをする。課題意識を高めるため、問題を順序よく考えたり、既習事項を使ったりして見通しをもって問題解決していく授業を行う。
- ・ 数量関係や意味をきちんと読み取れるよう、表や図、式に表したり、少人数で話し合ったりさせる。また、自力解決場面での個に応じた具体的な手立てや、発表・検討を行い学習内容の理解を高め、広げ、深められるよう工夫しながら授業を行う。
- ・ 知識・技能を高めるために、「東京ベーシックドリル」などを、児童の実態に応じて、また、「レビュータイム」などを活用し、年間を通して繰り返し取り組ませることで、内容の定着や充実を図る。



## 3 活用につながる指導

- ・ **算数学習全体を通して、既習事項を新しい問題解決の手立てとするよう促しながら、多様な方法で考え、より良い方法を選択し、考え方の良さ、便利さを見出し、しくみやきまりを適用していくなどの活動の幅を広げていける学習の充実を図っていく。**同時に、納得できたという実感をもたせながら指導を進めていくことを大切にする。
- ・ 言語・表現活動の充実を図るため、**式、図、グラフ、数直線などを用いて自分の考えを説明する活動など単元を通して実施し**、数学的な考え方や思考力を育てていく。
- ・ 授業の終末には本時の学習内容を適用した類似問題に取り組ませ、理解の定着や、思考力を高められるよう工夫を図っていく。また、「レビュータイム」などで「東京ベーシックドリル」などを活用し、学習内容の変容を見取りながら、個に応じた手立てを講じ、繰り返し習熟問題に取り組ませていく。